

台湾のバイヤー マッチング・商談会 媒体資料

2023.01

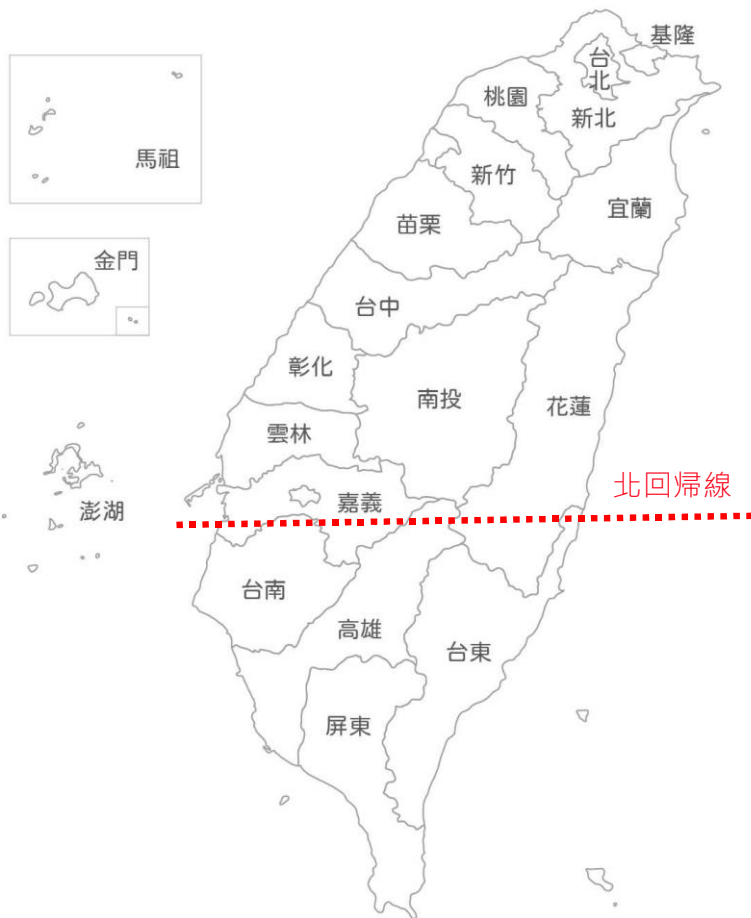
NKB 恩可比文創廣告

恩可比文創廣告股份有限公司

NKB ADVERTISING TAIWAN CO.,LTD.

10485台北市中山區南京東路二段137號14樓MACUS商務中心:

① 台湾概況



台湾基礎データ

人口	約2,342万人 (2023年12月)
面積	3万6千平方キロメートル (九州よりやや小さい)
主要都市	台北、台中、高雄
地形	全島面積の3分の2が高山や林地。島の中部に山地が連なり平地は西に多い。
気候	台湾本島の中央を横切る北回帰線を挟んで北が亜熱帯・南が熱帯地域。長い夏と短い冬があり、はっきりとした四季はない。夏から秋にかけては台風が通過。
言語	中国語、台湾語、客家語等
民族	漢民族 (9割以上)、原住民 (16民族)、新住民 (台湾籍を新たに取得)
宗教	仏教、道教、キリスト教
政治体制	三民主義 (民族主義、民権主義、民生主義) に基づく民主共和制。五権分立 (行政、立法、司法、考試、監察)。
総統	蔡英文 / 頼清徳 (2024年5月20日 ~)
主要産業	電気・電子、化学品、鉄鋼金属、機械
GDP	名目:7,560億米ドル (2023年) 1人あたり:32,358米ドル (2023年)
通貨	新台幣ドル (NTD) 1 NTD ≒ 4.7円 (2024年2月1日時点)

邦人・日系団体情報

日系経済団体	台湾日本人会 法人会員 263社 (2022年12月末時点) 台北市日本工商会会員企業 490社 (2023年3月末時点)
台湾在留邦人数	20,345人 (2022年10月1日時点)

(出所) 台湾行政院、内政部、交通部、日本工商会等

① 台湾概況

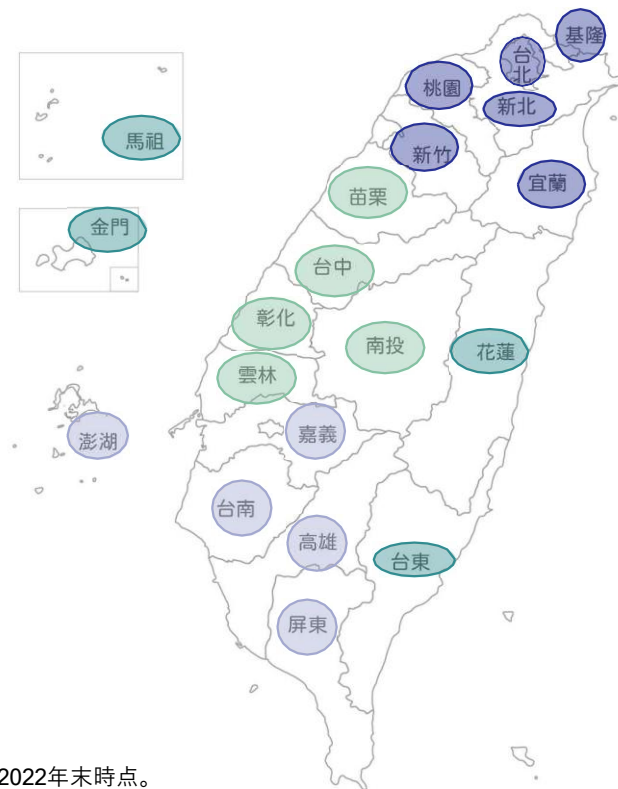
- 台湾の人口総数は2023年12月現在、2,342万人。「40～44歳」のいわゆる働き盛り世代が人口の中で最も多い割合を占める。人口は2019年をピークに減少に転じ、2070年には1,502万人～1,708万人まで減少すると見込まれている。同時に高齢化も進行しており、2070年には高齢者比率が43.6%まで高まると予測されている。
- 中心都市である、台北市、台中市、高雄市いずれも台湾西部に位置する。総人口の約3割が、台北市と隣接する新北市に居住している。

台湾における人口*

(単位) 人口・人、世帯・戸、可処分所得・台湾ドル

北部				
都市名	人口	世帯数	世帯平均可処分所得	エンゲル係数
台北市	2,511,886	1,065,032	1,444,264	28.2%
新北市	4,041,120	1,671,070	1,179,777	25.4%
桃園市	2,317,445	903,481	1,195,169	28.0%
基隆市	362,255	159,249	917,655	27.9%
新竹市	456,475	179,332	1,374,113	27.0%
新竹県	589,289	220,893	1,380,296	24.2%
宜蘭県	449,890	178,652	961,225	28.3%
中部				
都市名	人口	世帯数	世帯平均可処分所得	エンゲル係数
台中市	2,845,909	1,059,625	1,102,924	26.6%
苗栗県	534,575	199,642	1,061,582	25.4%
彰化県	1,239,048	406,385	924,960	27.4%
雲林県	659,468	246,974	869,524	24.7%
南投県	477,094	180,637	878,953	27.4%

南部				
都市名	人口	世帯数	世帯平均可処分所得	エンゲル係数
台南市	1,859,946	727,137	941,880	30.7%
高雄市	2,737,941	1,150,775	1,035,378	29.8%
嘉義市	263,584	103,384	1,077,735	30.0%
嘉義県	484,560	186,431	764,224	32.3%
屏東県	794,997	297,813	909,670	34.2%
澎湖県	107,739	43,235	767,244	32.3%
東部および離島				
都市名	人口	世帯数	世帯平均可処分所得	エンゲル係数
花蓮県	317,489	128,875	859,654	26.1%
台東県	211,544	84,665	779,852	28.7%
金門県	144,149	43,829	993,416	29.0%
連江県	14,039	3,707	1,032,422	26.5%



* 人口数と世帯数は2023年末時点、世帯平均可処分所得およびエンゲル係数は2022年末時点。台北市、新北市、桃園市、台中市、台南市、高雄市（背景水色）は直轄市を指す。

(出所) 台湾内政部・行政院主計処

① 台湾概況

台湾における主な農水産品の生産量、食糧自給率（2022年）

- 米は台湾の主要農産品の1つであり、自給率は103.9%（熱量ベース）。小麦、大豆の生産量は少なく、自給率は1%に満たない。
- 畜産品のうち、肉類では豚肉の生産量が最も多く、約84万トン（自給率は88.5%）。一方で牛肉の生産量は約8,000トン（自給率は4.6%）にとどまる。
- 野菜、果樹類ではキャベツ、かんしょ（さつまいも）の他、熱帯果樹類（パイナップル、バナナ、グアバ等）の生産量が多い。
- 水産品では、かつお類、まぐろ類、貝類（うち約7割がはまぐり）、頭足類（うち約9割がいか）の生産量が多い。
- 台湾の食糧自給率（全体）は30.7%（2022年）であり、直近5年間は減少傾向である。

台湾における主な農水産品の品目別生産量（2022年、トン）

米・小麦・大豆	
米	1,251,511
小麦	655
大豆	5,619

畜産品	
牛肉	8,071
豚肉	838,436
鶏肉	680,405
鶏卵	456,991
牛乳	463,095

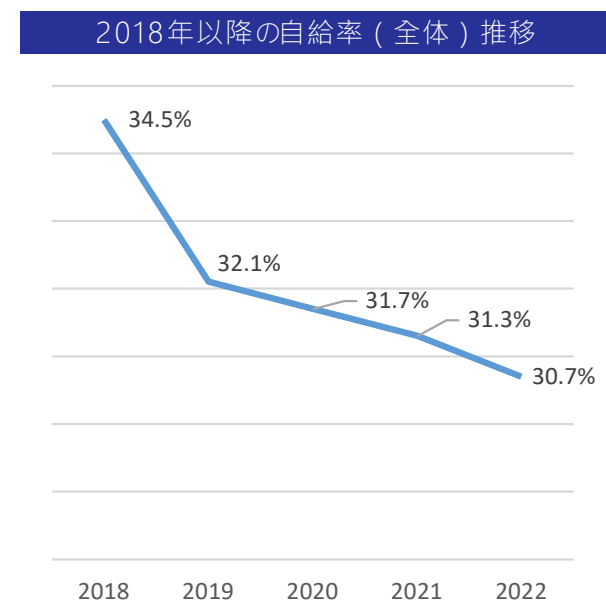
野菜・果樹類	
キャベツ	422,406
パイナップル	382,333
バナナ	351,468
かんしょ	224,212
グアバ	197,385
...	...
ぶどう	65,549
かき	64,656
もも	17,068
いちご	6,572
りんご	1,406

水産品	
かつお類	183,036
まぐろ類	147,984
貝類	74,854
頭足類	72,537
ティラピア	57,802
...	...
さば	45,231
たい類	2,125

* データは2022年

台湾における主な品目の食糧自給率（熱量ベース）

2022年実績	
全体	30.7%
米	103.9%
小麦	0.05%
大豆	0.2%
かんしょ	99.7%
ばれいしょ	17.0%
野菜類	85.0%
果樹類	82.9%
乳製品類	34.6%
牛肉	4.6%
豚肉	88.5%
家きん肉	76.4%
卵類	99.7%
水産品	131.9%



(出所) 台湾農業部

② 台湾における農林水産物・食品の輸入概況

- 台湾における2022年の農林水産物の輸入額は、前年比13%増の205億米ドルと初の200億米ドル台に達した。油糧種子や小麦、トウモロコシなどの穀類の輸入元であるアメリカやオーストラリア、アルゼンチンの伸び率が高い。
- 日本は米国、中国、ブラジルに次ぐ第4位の輸入先に位置づけられており、輸入全体の約5%を占める。

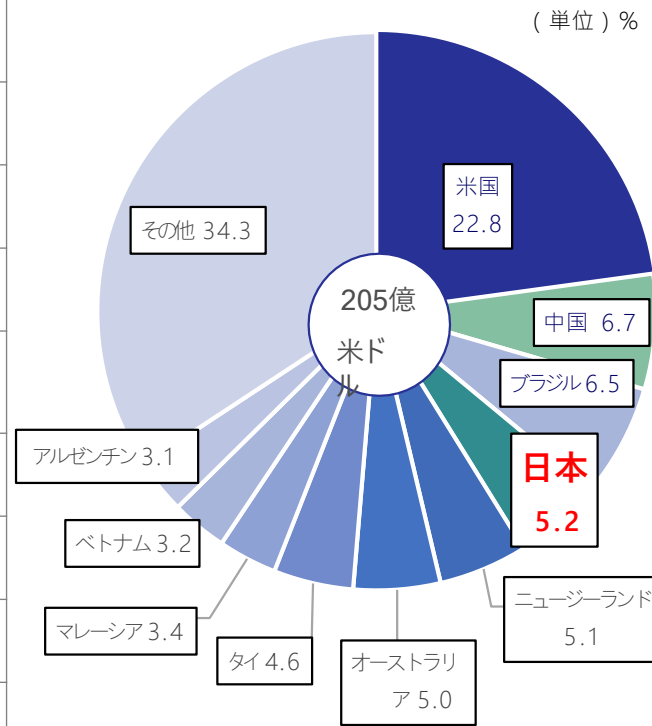
台湾の国・地域別農林水産物輸入

(単位) 千米ドル

順位	国・地域	2020	2021	2022		主要品目	
		輸入額	輸入額	輸入額	割合		増加率
1	米国	1,202,372	3,954,123	4,682,286	22.8%	18.4%	①大豆(油糧種子)、②小麦・穀類、③牛肉(生鮮・冷蔵)、④その他農産品、⑤牛肉(冷凍)、
2	中国	1,039,991	1,318,750	1,369,220	6.7%	3.8%	①酒類、②合板、③その他農産品、④単板、⑤植物性漢方
3	ブラジル	848,879	1,253,090	1,330,968	6.5%	6.2%	①大豆(油糧種子)、②トウモロコシ(穀類)、③未焙煎コーヒー、④針葉樹(製材)、⑤タバコ原料
4	日本	814,624	1,020,388	1,057,919	5.2%	3.7%	①その他農産品②酒類、③ホタテ貝(冷凍)、④りんご(生鮮・冷蔵)、⑤牛肉(生鮮・冷蔵)
5	ニュージーランド	814,624	927,625	1,054,934	5.1%	13.7%	①粉ミルク、②牛肉(冷凍)、③キウイフルーツ(生鮮・冷蔵)、④ナチュラルチーズ、⑤りんご(生鮮・冷蔵)
6	オーストラリア	667,867	844,362	1,032,378	5%	22.3%	①小麦(穀類)、②牛肉(冷凍)、③牛肉(生鮮・冷蔵)、④羊肉(冷凍)、⑤活ロブスター
7	タイ	692,709	825,932	950,977	4.6%	15.1%	①タピオカ(デンプン状)、②粗精糖、③ペットフード、④その他農産品、⑤その他林産物
8	マレーシア	499,414	576,402	699,821	3.4%	21.4%	①パーム油、②その他農産品、③広葉樹(製材)、④合板、⑤ベーカリー製品、
9	ベトナム	458,076	559,897	665,758	3.2%	18.9%	①その他林産物、②その他調整品、③その他果物(生鮮・冷蔵)、④広葉樹(木材/パルプ)、⑤魚類およびその製品
10	アルゼンチン	253,164	447,940	640,673	3.1%	43%	①トウモロコシ(穀類)、②チーズとコンデンスミルク、③大豆(油糧種子)、④その他甲殻類(冷凍)⑤綿
合計		15,367,494	18,093,973	20,511,583	—	13.4%	—

*順位は2022年を基準に作成。増加率は前年比。

国・地域別割合 (2022年)



(出所) 台湾農業部

② 台湾における農林水産物・食品の輸入概況

- 台湾の主要輸入品目において日本産は酒類や牛肉、りんご、ベーカリー製品、ホタテ貝等で高いシェアを誇る。

台湾における農水産物の主な輸入国・地域（2022年）

No.	品目	輸入額 (千米ドル)	割合 (%)	1位	割合 (%)	2位	割合 (%)	3位	割合 (%)	日本割合 (%)
1	大豆（油糧種子）	1,860,863	9.07	米国	62.79	ブラジル	33.88	カナダ	2.38	n.i.
2	トウモロコシ（穀物）	1,740,763	8.49	アルゼンチン	30.19	ブラジル	29.77	南アフリカ	22.15	n.i.
3	酒類	1,444,497	7.04	イギリス	37.44	フランス	16.99	日本	9.45	9.45
4	牛肉（冷凍）	855,265	4.17	米国	43.42	パラグアイ	24.6	オーストラリア	14.72	0.03
5	小麦（穀類）	598,667	2.92	米国	70.76	オーストラリア	27.88	インド	0.74	n.i.
6	牛肉（生鮮冷蔵）	555,560	2.71	米国	75.02	オーストラリア	13.92	日本	9.35	9.35
7	針葉樹（製材）	346,065	1.69	カナダ	31.87	ドイツ	16.69	ニュージーランド	10.35	0.03
8	パーム油	333,484	1.63	マレーシア	95.38	インドネシア	4.38	ドイツ	0.16	n.i.
9	粉ミルクおよび粉末	318,390	1.55	ニュージーランド	78.49	アイルランド	4.29	ベルギー	3	0.04
10	粗精糖	301,526	1.47	タイ	45.79	グアテマラ	33.83	インド	8.03	n.i.
11	白エビ（冷凍）	273,886	1.34	ホンジュラス	32.55	ニカラグア	20.31	パナマ	15.31	n.i.
12	鶏（冷凍）	271,841	1.33	米国	96.82	カナダ	3.18	-	-	n.i.
13	ペットフード	271,765	1.32	タイ	37.21	米国	18.46	カナダ	8.94	0.09
14	豚（冷凍肉）	267,128	1.3	スペイン	51.45	デンマーク	16.62	カナダ	16.4	n.i.
15	りんご（生鮮・冷蔵）	264,271	1.29	日本	28.46	ニュージーランド	26.93	米国	24.12	28.46
16	飼料用魚粉	218,343	1.06	ペルー	19.28	インド	15.06	米国	9.92	0.06
17	ベーカリー製品	216,852	1.06	日本	21.58	マレーシア	17.5	韓国	9.07	21.58
36	ホタテ貝（冷凍）	100,914	0.5	日本	84.0	中国	14.6	フィリピン	0.7	84.0
40	ぶどう（生鮮・冷蔵）	95,116	0.5	米国	41.4	日本	17.6	ペルー	15.9	17.6

日本の輸出重点品目（一部）の輸入概況（2022年）

（出所）台湾農業部

日本輸出重点品目	台湾における輸入額 (千米ドル)	うち日本 (千米ドル)	日本が占める割合 (%)
コメ（精米）	98,411	7,179	7.3
鶏卵	4,361	2,963	68
牛乳・乳製品	866,933	15,039	1.7
もも（生鮮・冷蔵）	48,017	4,690	9.8
かんきつ（生鮮・乾燥）	1,059	1,056	99.7
かき（生鮮・冷蔵）	356	228	64
いちご（生鮮・冷蔵）	11,097	4,997	45
切り花	1,043	23	2.2

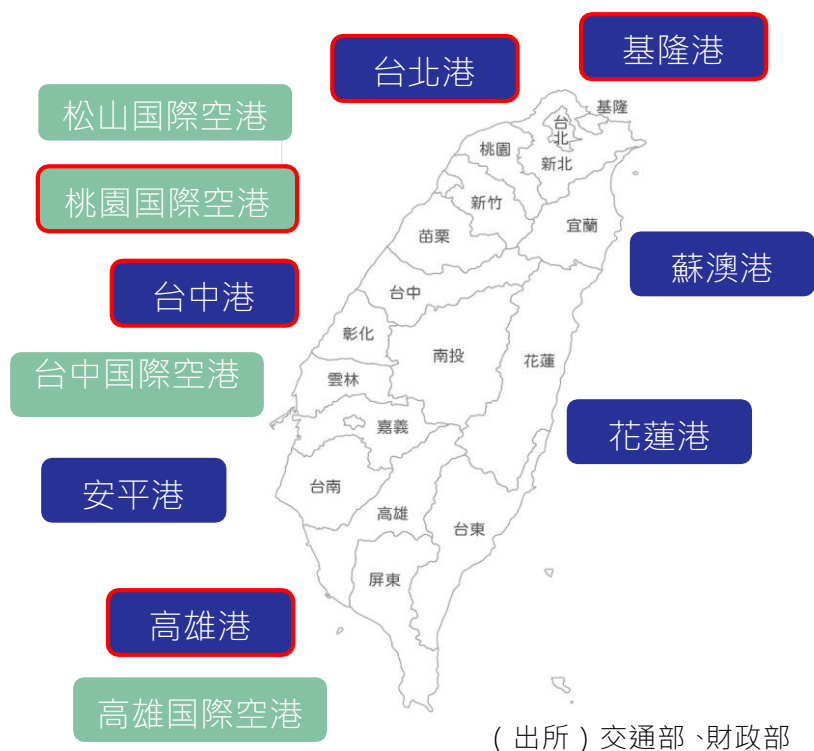
日本輸出重点品目	台湾における輸入額 (千米ドル)	うち日本 (千米ドル)	日本が占める割合 (%)
かんしょ（生鮮・冷蔵・乾燥）	709	690	97.3
茶（緑茶）	29,927	15,875	53
たい（生鮮・冷蔵）	1,122	456	40.6
清涼飲料水	15,928	3,123	19.6
菓子	391,632	88,146	22.5
味噌	2,608	2,510	96.2
醤油	9,612	6,034	62.8
ウイスキー	562,467	24,560	4.4

③ 台湾における農林水産物・食品の物流の概況

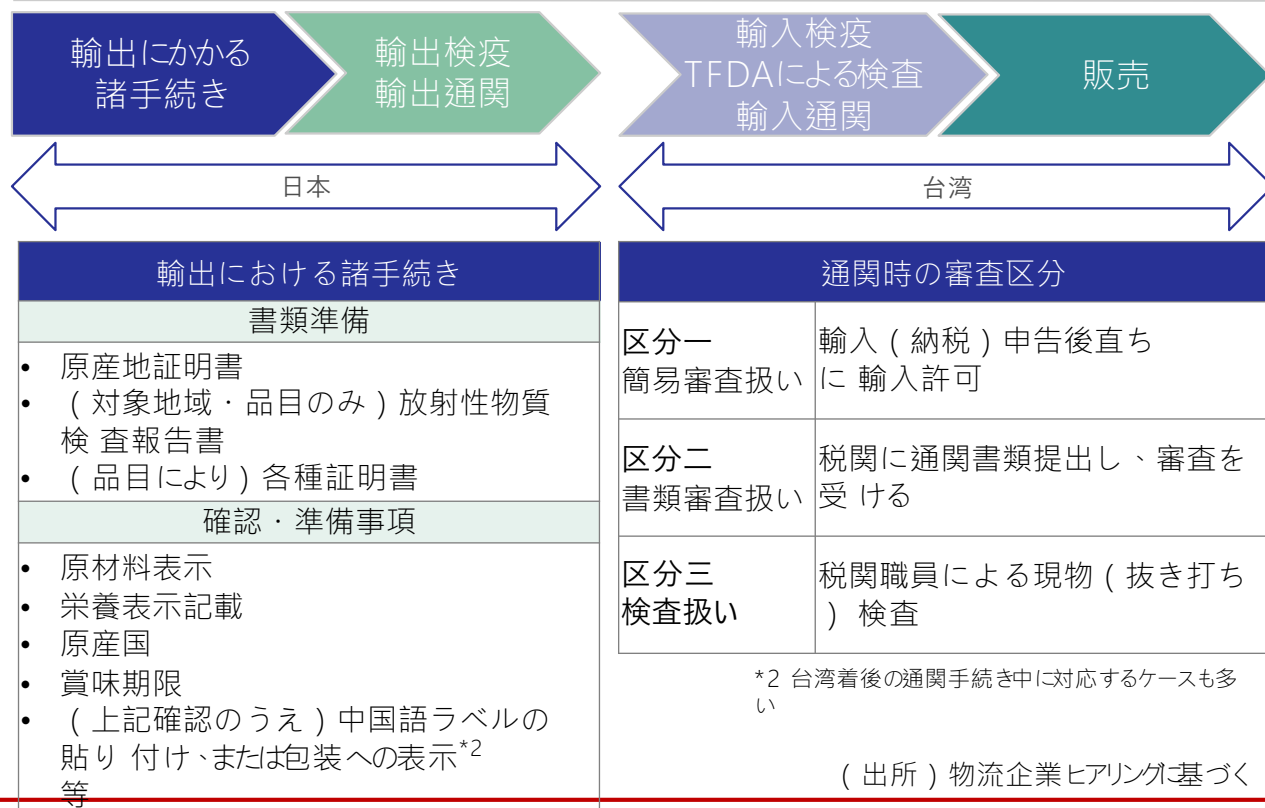
- 台湾は、7つの国際港と4つの国際空港を有する。日本の農林水産物・食品は、航空便は桃園、船便は基隆、台北、台中、高雄から輸入されるケースが多い。横浜港、神戸港から台湾各港湾の到着までは平均で5～7日程度の日数を要する。
- 加工食品等は、衛生福利部食品薬物管理署（TFDA）による抽出検査に時間を要するケースもあり、その後の通関手続きを含め（右下表参照）、引き取りまで1～2ヶ月かかるケースも多い*1。
- 生鮮食品等は航空便を使用して出荷するケースが多く、抽出検査の対象にならないければ到着即日の引き取りとなる。検査の対象になった場合は、検査内容に応じて、1～3日後、引き取りとなる。

*1 航空便で輸入した場合も1ヶ月、それ以上の日数を要するケースもあり

台湾の主要空港・国際港



日本から台湾への食品輸出の一般的な流れ



④ 日本から台湾への農林水産物・食品の輸出

- 輸出額上位品目は、りんご、アルコール飲料、ホタテ貝。牛肉は2017年に解禁されて以降、常に5位以内にランクインしている。

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
1	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	たばこ	りんご	りんご	りんご	りんご	りんご	りんご
	172億円	148億円	122億円	130億円	111億円	78億円	98億円	99億円	71億円	118億円	129億円
2	さんご	りんご	りんご	りんご	りんご	アルコール飲料	アルコール飲料	アルコール飲料	ソース混合調味料	アルコール飲料	アルコール飲料
	41億円	60億円	68億円	99億円	98億円	53億円	59億円	62億円	67億円	93億円	120億円
3	ソース混合調味料	さんご	さんご	さんご	さんご	ソース混合調味料	ソース混合調味料	ソース混合調味料	アルコール飲料	ホタテ貝	ホタテ貝
	35億円	52億円	57億円	73億円	55億円	53億円	59億円	59億円	65億円	87億円	112億円
4	りんご	ソース混合調味料	ソース混合調味料	ソース混合調味料	ソース混合調味料	さんご	ホタテ貝	ホタテ貝	ホタテ貝	ソース混合調味料	ソース混合調味料
	27億円	38億円	42億円	51億円	47億円	36億円	44億円	54億円	57億円	77億円	80億円
5	アルコール飲料	アルコール飲料	アルコール飲料	アルコール飲料	アルコール飲料	ホタテ貝	牛肉*1	牛肉	牛肉	牛肉	牛肉
	23億円	29億円	36億円	45億円	46億円	33億円	41億円	37億円	41億円	55億円	71億円
6	菓子*2	豚の皮	豚の皮	豚の皮	ホタテ貝	清涼飲料水	清涼飲料水	清涼飲料水	清涼飲料水	たばこ	清涼飲料水
	16億円	27億円	35億円	33億円	33億円	24億円	27億円	27億円	29億円	38億円	35億円
7	豚の皮	ホタテ貝	菓子	ホタテ貝	豚の皮	菓子	菓子	菓子	たばこ	清涼飲料水	菓子
	15億円	22億円	33億円	32億円	29億円	22億円	24億円	22億円	25億円	32億円	34億円
8	清涼飲料水	菓子	ホタテ貝	菓子	菓子	豚の皮	さんご	さんご	菓子	菓子	キャビア及びその代用物
	12億円	20億円	19億円	24億円	22億円	21億円	24億円	18億円	25億円	32億円	31億円
9	ながいも	清涼飲料水	清涼飲料水	清涼飲料水	清涼飲料水	たばこ	コーヒー	スープ プロス	ぶどう	ぶどう	たばこ
	11億円	15億円	17億円	17億円	20億円	16億円	15億円	16億円	17億円	22億円	27億円
10	ホタテ貝	ながいも	ながいも	ながいも	ながいも	粉乳	たばこ	緑茶	スープ プロス	キャビア及びその代用物	ぶどう
	10億円	11億円	14億円	13億円	13億円	15億円	15億円	15億円	17億円	20億円	24億円

*1 2022年「牛肉」の金額は加工品を含む金額（2021年以前は加工品を含まない） *2 米菓を除く

（出所）財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

⑤ 台湾人の食生活と嗜好、味の好み

日本人から見た台湾人の食生活、嗜好、味の好みの傾向

生活・習慣

- 都心部を中心とした働き盛り世代は、共働きが多いこともあり、家で料理を作ることは少なく、外食と中食を好む。新しい料理・味を受け入れることに抵抗がなく、日系のみならず幅広い国・地域の外食産業が進出している。50代以降や中南部では自炊率が比較的に高い。
- 食事・飲酒と目的別に店を選定する傾向があり、食事メインの店でアルコールの種類はさほど多くない。一方で、ワインや日本酒などのお酒を嗜む人々も増加傾向にあり、2012年は1.9億リットルだった酒類の輸入量は、2022年に3.26億リットルと1.5倍近く増加しており、海外産の酒類の人気の高さが窺える。
- 体を冷やさないう、冷たいものを摂取するのを避ける傾向があるとされる。台湾の街中にあるドリンクスタンドでは氷の量も調整可能。

嗜好・味の好み

- 日本の味付けと比較すると、全体的に「甘味が強い」。特に南部では甘味を好む傾向がある。ソーセージに蜂蜜や、味噌や醤油等に砂糖を加えているものもある。
- 薄味を好み、塩味の強い食事は好まない傾向にある。日本食は人気だが、味付けでは塩分を控え目に展開する企業も多い。一方で若い世代や人口の多い都市では塩分控えめのスープと濃い味のスープ（日本と同様の味付け）を選択できるシステムを導入しているラーメン店もある。

特徴的な飲食店

- 鍋料理が浸透しており、夏でも鍋を食べる文化がある。鍋チェーン店も多く、1人で鍋を楽しめる1人1鍋の店も多数ある。
- 健康上や宗教上の理由で菜食主義者も増加傾向にあり、2020年時点で全人口の13%を占めている。肉・魚を使用せず野菜や大豆製品のみで作る菜食料理を「素食」といい、街中で「素食」の看板が見受けられる。なお、素食製品は5種類*（全素、蛋素、奶素、蛋奶素、植物五辛素）に分類され、素食レストランでは、この分類がメニューに記載されていることもある。

* 詳細はP.42の表「台湾における素食（ベジタリアン）定義」参照



週末に賑わう火鍋店



1年を通して人気の火鍋は種類も豊富
1人で鍋を楽しめる店もある



素食専門の移動販売店

Sugar	Ice
no sugar 無糖	no ice 完全去冰
low/light sugar 微糖	low/light ice 微冰
half sugar 半糖	half ice 半冰
less sugar 少糖	less ice 少冰
regular / normal 正常	regular / normal 正常
extra sugar 多糖	extra ice 多冰 room temperature 常温

ドリンクスタンドのメニュー一例
砂糖や氷の量を調整可能

（出所）在台湾日系企業へのヒアリングに基づく

⑦ 台湾における食品小売業の動向

- 台湾における主要食品スーパーはPX Mart、Simple Mart、Carrefour Supermarket等が挙げられる。
- 日系食品小売業も積極的な展開を図っており、2023年には日系スーパーのロピアが海外第1号店を「巨井ショッピングパーク さらぼーと台中」に出店した。2024年2月現在、台中、桃園、新北市（中和区）に3店舗保有し、6月には新北市（新荘区）に4店舗目を出店予定。総合ディスカウントストア日本最大手「ドン・キホーテ」も5店舗（2023年12月現在）展開している。

日本産食品を取り扱う主要スーパー

店舗名	事業者名	店舗数 (2023年5月末)
city'super	遠東都會(股)	8
Mia C'bon ^(*)	統康生活事業 (家福傘下)	21
美麗市場	新光三越百貨(股)	4
微風超市	微風超市(股)	3
裕毛屋	裕毛屋企業(股)	1

*1 元「JASONS超市」。家樂福(カルフル)が買収後、2022年6月に「Mia C'bon」へ名称を変更した。

日本産食品を取り扱う日系スーパー、食品店

店舗名	日本名	店舗数 (2023年末)
樂比亞LOPIA	ロピア	2
日本農産品直営店JAJA	JA全農	1
DON DON DONKI TAIWAN	ドン・キホーテ	5
咖樂迪咖啡廣場	カルディCoffee Farm	11

台湾における主要食品スーパー^{*2}

店舗名	事業者名 (店名)	店舗数 (2023年5月末)
PX Mart	全聯實業 (全聯福利中心)	1,145
Simple Mart	三商家購 (美廉社)	811
Carrefour Supermarket	家福(股) (家樂福超市)	246
Costco ^{*3}	(好市多)	14

* 2 いずれのスーパーも日本産食品の取り扱いの一部あり *3 卸売小売業。店舗数は2022年末時点



LOPIA LaLaport 台中店
青果物や精肉等の日本産食品を豊富に揃えて
おり週末は近隣県からも買い物に訪れる人も多い



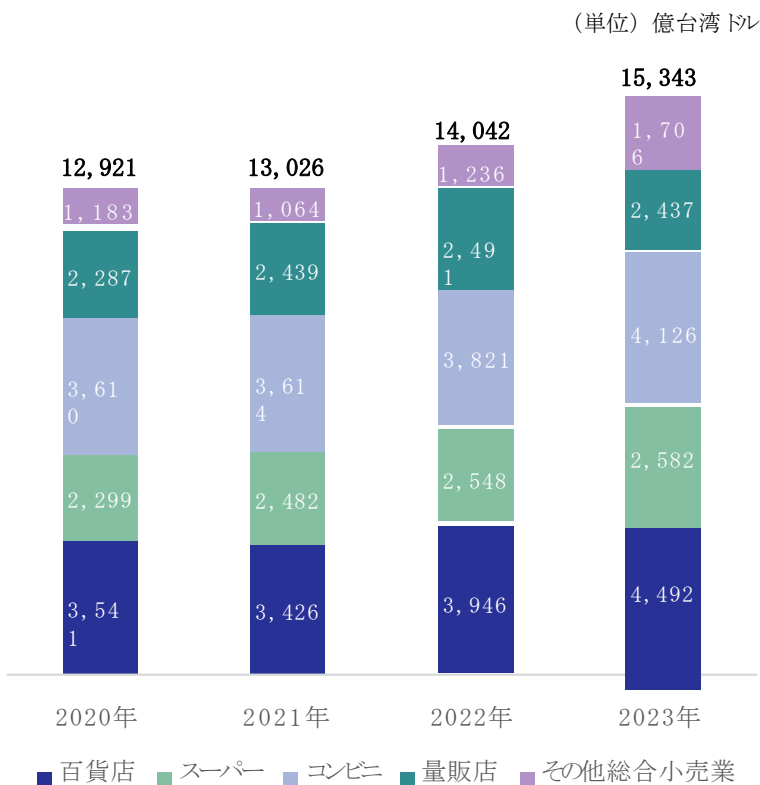
台北市内のスーパー
春節シーズンには店頭でギフトが並ぶ

(出所) 2023台湾地区大型店舗総覧、台湾經濟部商業処、公開情報

⑦ 台湾における食品小売業の動向

- 台湾における百貨店は、総合小売業（百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、量販店）の売上高の中で高い割合を占めているのが特徴。2023年の百貨店の売上高は4,492億台湾ドルと、過去最高の売上高を更新。総合小売業売上高全体の約3割を占めている。
- また、台湾の百貨店は集客力強化のため人気レストランを誘致していることから、飲食店の売上が比較的高い割合を占めている。2019年の経済部が調査した百貨店売上比率によると、飲食店の売上高は全体の17%を占めている。

台湾における総合小売業売上高推移



(出所) 經濟部統計処

台湾における主要百貨店売上高 (2022年)

	店舗名 (所在地)	売上高 (百万台湾ドル)	前年比 (%)	従業員 (人)
1	新光三越 (全域)	74,252	-1.5	2,795
2	遠東百貨 (全域)	46,518	-1.66	1,286
3	遠東SOGO (全域)	41,199	-1.53	1,342
4	台北101 (台北)	12,634	1.63	N.A
5	漢神アリーナショッピングプラザ (高雄)	11,614	-0.59	178
6	漢神デパート (高雄)	10,369	11.78	256
7	南紡ショッピングモール (台南)	6,669	17.39	179
8	ビッグシティーショッピングモール (新竹)	6,600	1.53	170
9	環球購物中心 (グローバルモール) (全域)	5,513	-9.31	215
10	誠品生活 (全域)	2,903	17.37	N.A

(出所) 中華徵信所Top5000

⑦ 台湾における食品小売業の動向

- 台湾はコンビニエンスストアの密集度が世界第二位であり、7-Eleven、Family Martが大宗を占め、店舗数は合計12,635店舗である（2022年末現在）。
- 密集度が高いことより、店舗や商品の差別化による集客に注力しており、イートインスペースやメニュー、商品を充実させ、飲食店、スーパーとしての機能をより高めた店舗も展開されつつある。
- 例えば、統一グループ傘下のセブンイレブンは、同グループ系の飲食店（ミスタードーナツやユールドストーンなど）とのコラボレーションによる店舗を展開。ファミリーマートは2022年より「FamiSuperセレクトショップ」にて、すぐ食べられる冷凍食品や半調理品、生鮮食材を販売する等、スーパー化した店舗を新たに展開をしている。
- また、店舗網を活かし、EC、予約販売、並びにLINEグループ等による共同購入（團購）の受取店舗の機能を果たす等、日本にはないサービスも実施。春節などのギフトシーズンには、和牛等も販売されるなど取扱商品も拡大傾向にある。

台湾における主要コンビニおよび店舗数

店舗名	事業者名	店舗数 (2022年末)
7-Eleven	統一超商	6,467
FamilyMart	全家便利商店	4,019
Hi-Life	萊爾富國際	1,377
OK-Mart	來來超商	772



- スーパー体型のコンビニは青森直送のりんごなどのクオリティ高い生鮮食品や輸入ワインなどが並ぶ
- イートインスペースも席数豊富に設置されており、店頭に並ぶパンや総菜、お弁当、冷凍食品、半調理品を温めて食べたり、コーヒーを飲んだりして寛く過ごせる



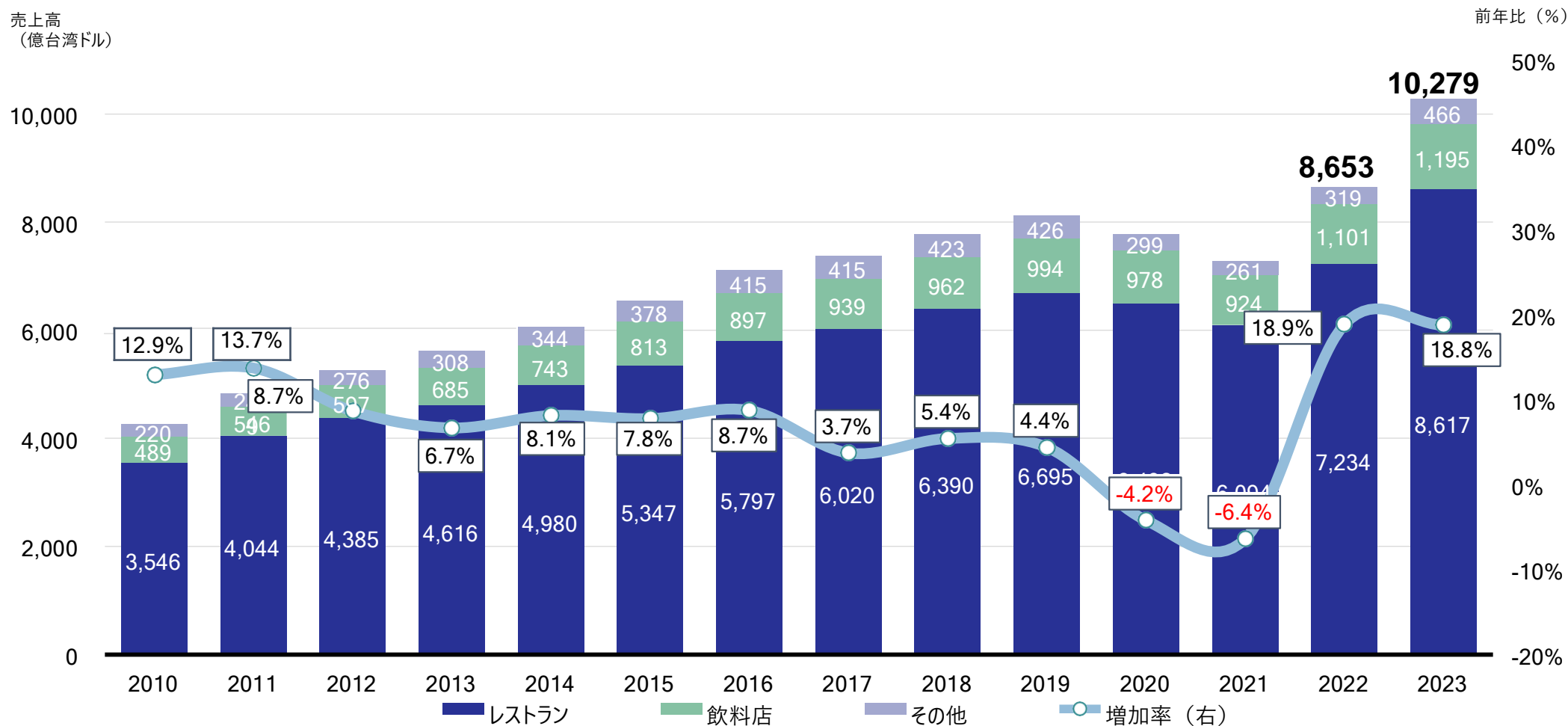
空港近くの店舗ではイートインスペースを飛行機機内風に演出

(出所) 2023台湾地区大型店舗総覧

⑧ 台湾における外食産業の動向

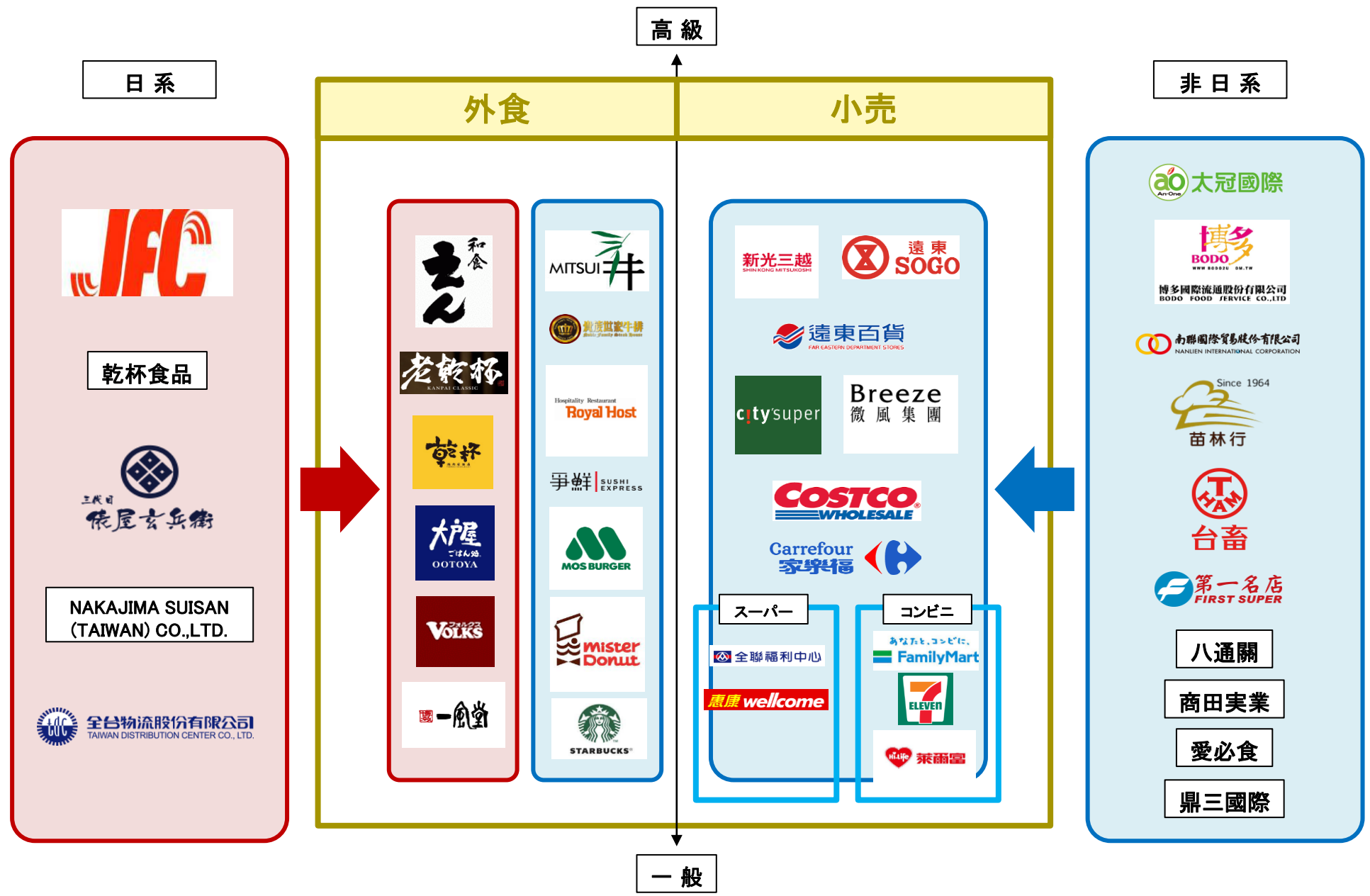
- 台湾における2023年の飲食店の総売上高は合計で10,279億台湾ドル（約4.7兆円）と過去最高額を記録。コロナの影響を受けた2020年、2021年以外は増加傾向にある。なお、飲食店はレストラン、飲料店（カフェ、ドリンクスタンド等）、その他（屋台等）の3種類に分類される。

台湾における飲食店売上高および前年比推移



(出所) 經濟部統計処

【參考資料】 弊社交流台灣小売・外食問屋相關圖 抜粋





TJCA 台湾国際若手シェフ協会 (TJCA 台灣國際年輕廚師協會)

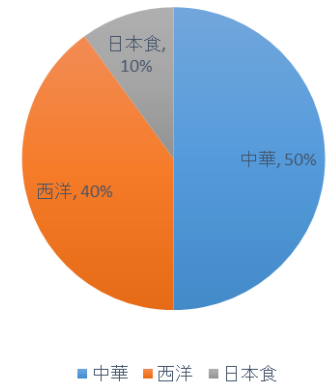
台湾国際若手シェフ協会は、主に20歳~40歳未満のシェフにより構成されている、非営利団体。会員数は**現在約500名**。

優れた若いシェフを中心に料理ジャンルを超えてのコミュニケーション。互いの成長や、新たなスターシェフの発掘、世界への発信などをサポートしております。

年に1回フランスで行われる国際大会に向けて、お互いの技術を競う大会や懇親会などを実施しております。

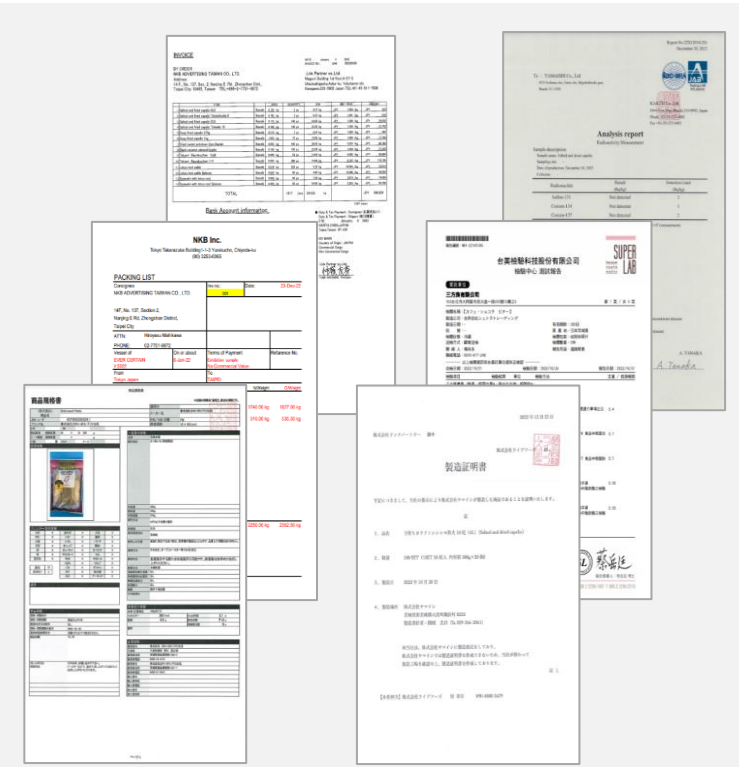
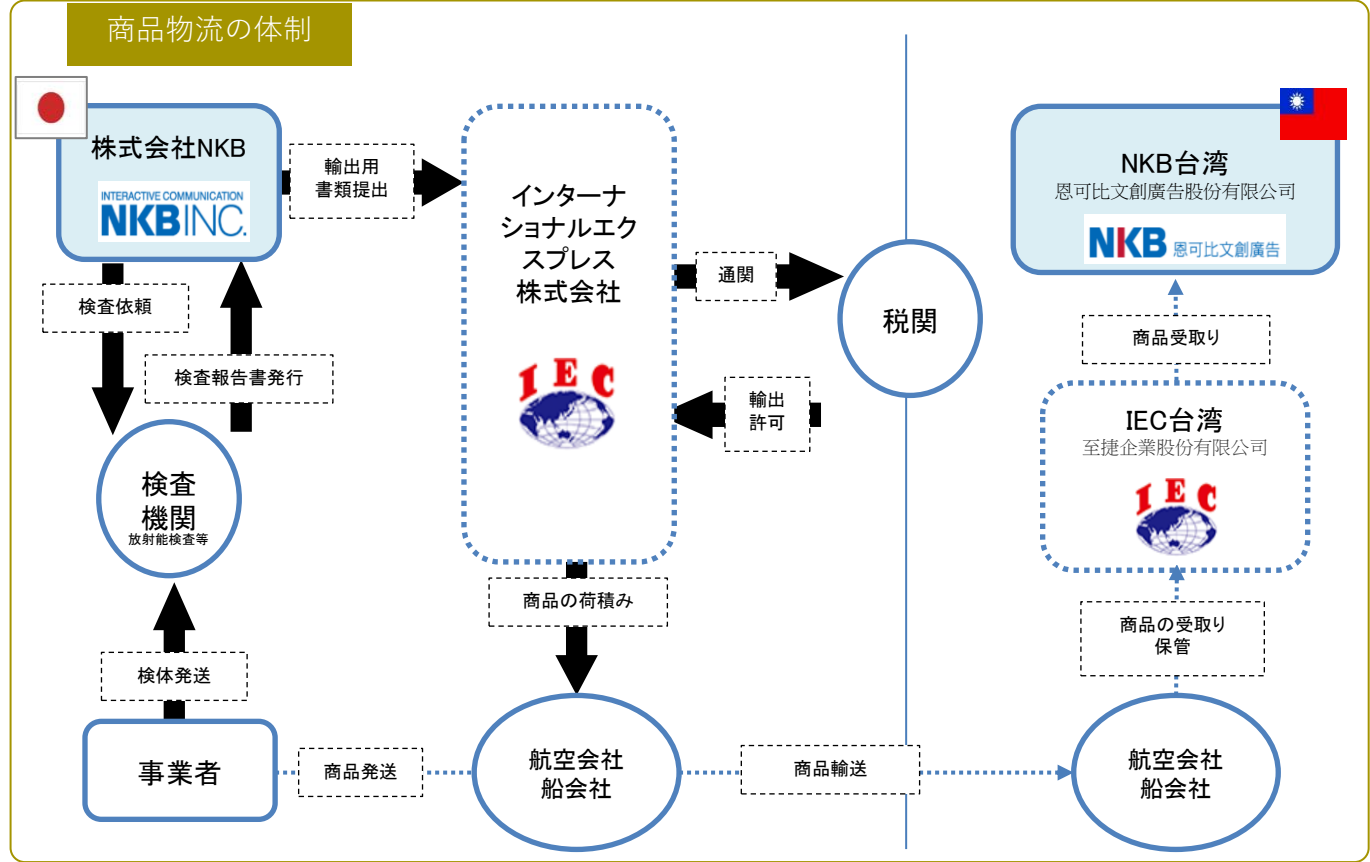


協会登録店の 料理ジャンル



商品物流の体制

商品の輸送・受取り・保管・配達まで、一貫したサポート体制を構築しております。
放射能検査含めた一貫通型の、経験豊富なスタッフ・パートナーとの体制を整えております。



通関書類一式イメージ

(商品企画書、放射線検査報告書、製造者証明書、原産地証明書、インボイス、パッキングリスト、栄養成分証明)

①食品バイヤーへの声掛け誘致 事務局

台湾で活動している食品バイヤーへ
自治体様・企業様へ、事前に商品の内容を
伝え、興味関心があるバイヤーを、現地に
招聘する。資料の翻訳なども実施いたします

現地までの飛行機手配など、すべて事務局で
行います。



②当日商談会の運営

商談会を運営するにあたり、マニュアルやタイムスケジュールの作成、アンケート作成などを行います。

タイムキーパーや通訳や会場の手配から事前準備など行います



③商談会後の事後サポート

商談会実施後に、参加されたバイヤーにアンケートのヒアリングや、その後の台湾においての流通サポートなどもおこないます



プラン概算金額：260万円（税別）

■バイヤー招聘プラン				
	数量	単価	費用	備考
1. 事務局費（事前/事後活動費）	1式	1,100,000	1,100,000	マニュアル・タイムスケジュール作成 商談会運営費・事後サポート
2. バイヤー招聘費	5名	300,000	1,500,000	交通費や宿泊費別途
			2,600,000	

※実施内容によって費用は変動いたします